

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-7777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所および大阪証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.daiso.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

(ご注意)

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

単元未満株式をお持ちの株主さまへ

当社は、1単元(1,000株)に満たない当社株式を所有されている株主さまの便宜をはかるため、「単元未満株式の買増・買取制度」を実施しております。お手続きなどの詳細に関しましては、証券会社にて株式を管理されている場合はお取引先の証券会社に、特別口座にて株式を管理されている場合は、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

当社グループをより知っていただくために、ホームページもご活用ください。

- 最新の情報はこちらをご覧ください。
ホームページアドレス <http://www.daiso.co.jp/>



トップページ

Something Better with Chemicals


株主のみなさまへ

第157期報告書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで



化学でもっといいこと。

 **ダイソー株式会社**
DAISO

証券コード 4046 <http://www.daiso.co.jp/>

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループでは、第157期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

平成24年6月

代表取締役
社長執行役員 **佐藤 存**

第157期の業績概要

当期のわが国経済は、東日本大震災の影響による停滞から回復の兆しが窺われたものの、電力供給の制約、タイの大洪水による自動車・電機関連企業の減産、原油価格の上昇、欧州における信用不安、歴史的な円高の進行および新興国の経済成長率鈍化などにより、厳しい状況で推移しました。

このような環境下、当社グループは、中期経営計画『DYNAMIC ACTION-13』の初年度にあたり、その基本方針であるコア事業(基礎化学品、機能化学品)の強化および次世代事業(医薬品原薬・中間体、電極)の育成による事業基盤の拡充、新規事業の創出、グローバル戦略およびコーポレート戦略の推進を図ってまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は824億8千9百万円と前期比2.1%増加し、過去最高となりました。

一方、利益面では、生産効率の向上や経費の削減など徹底したコストダウンに取り組みましたが、期後半において、ユーザーの在庫調整による需要減退および急激な円高の影響を受け、営業利益は40億8千2百万円と前期比8.7%の減少、経常利益も42

億4千6百万円と前期比8.1%の減少となり、当期純利益も税制改正にともなう繰延税金資産取り崩しの影響もあり、19億4千万円と前期比20.0%の減少となりました。

なお、期末配当金につきましては3.5円とし、中間配当金の3.5円とあわせ、1株につき年間7円とさせていただきます。

今後の対処すべき課題

今後のわが国の経済見通しにつきましては、震災復興の本格化による公共投資の増加や円高修正による企業の業績改善などにより、緩やかな景気の回復が期待されております。しかし、原燃料価格の高騰や電気料金の値上げ、急激な為替の変動などが懸念され、依然として厳しい環境が続くものと考えられます。

このような情勢のもと、当社グループは、中期経営計画『DYNAMIC ACTION-13』の2年目を迎えるにあたり、

り、企業規模の拡大を目指し、本年4月1日に岡山化成株式会社を完全子会社化したしました。水島工場との一体運営による効率化に取り組み、クローラールカリ事業の競争力を強化し、AC(アリルクロライド)・EP(エピクロルヒドリン)チェーンの一層の拡大を図ってまいります。

当社グループは、企業の社会的責任を重視し日々の事業活動において法令遵守に積極的に取り組み、内部統制システムを強化しコンプライアンス体制の一層の充実を図り、社会に信頼される企業グループを目指してまいります。

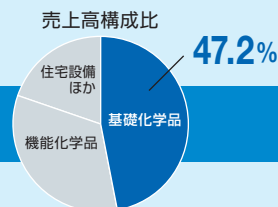
環境・安全と製品の品質の確保につきましても、レスポンス・ケア活動とISO活動を通じて万全を期すとともに、省資源・省エネルギー活動に積極的に取り組み、地球環境と調和した企業の発展を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

企業理念

1. 私たちは化学を中心とする事業を通じてより豊かな社会の実現に貢献します
2. 私たちは世界に信頼される技術と製品を創造します
3. 私たちは情熱と誠意をもって行動します

基礎化学品



かせいソーダは、震災対応による緊急増産の実施と電解メーカー撤退の影響により、売上高が増加しました。

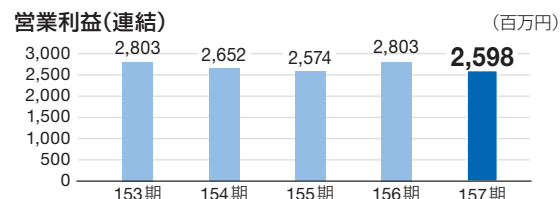
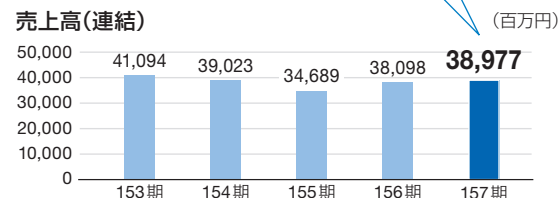
無機塩化物は、電子材料用途をはじめ全般的に需要が低調であったため、売上高が減少しました。

エピクロルヒドリンは、主用途である電子材料向けエポキシ樹脂の需要が落ち込んだため、売上高が減少しました。

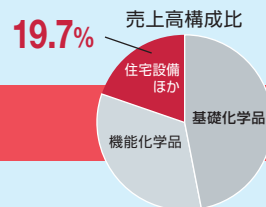
以上の結果、基礎化学品の売上高は、389億7千7百万円と前期比2.3%の増加となりました。

売上高

389億7千7百万円
2.3%増加



住宅設備ほか



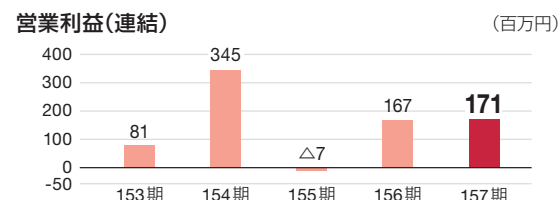
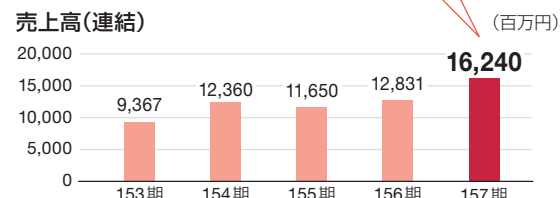
化粧板などのダップ加工材は、ファブレス化による生産体制の再構築の実施により、売上高が増加しました。また、防災・節電関連商品の拡販も寄与しました。

エンジニアリング部門は、設備工事の完成が続き、売上高が増加しました。

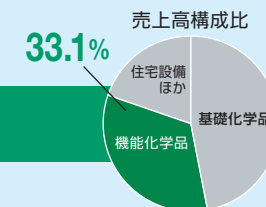
以上の結果、住宅設備ほかの売上高は、162億4千万円と前期比26.6%の増加となりました。

売上高

162億4千万円
26.6%増加



機能化学品



アリルエーテル類は、シランカップリング剤用途向けの需要落ち込みにより、欧州および中国向け輸出が低調に推移したため、売上高が減少しました。

エピクロルヒドリンゴムは、自動車用途では国内向けが回復するとともに欧州向けが順調に推移しましたが、アジア向けが低調であり、OA機器用途向けも減少したため、売上高が減少しました。

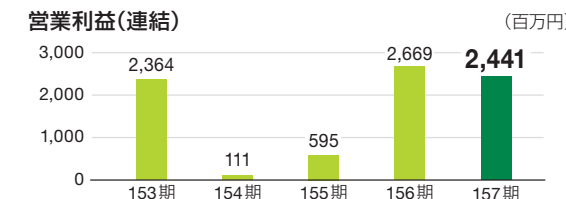
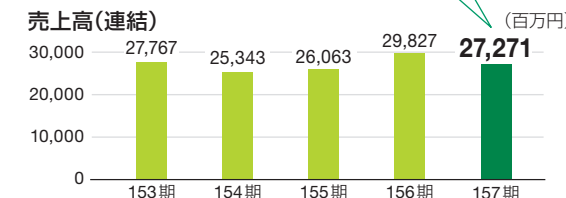
ダップ樹脂については、ポリマーのUVインキ用途向けが国内外とも増加しましたが、モノマーの中国、欧州への絶縁ワニス用途向けが落ち込んだため、売上高が減少しました。

液体クロマトグラフィー用シリカゲルは、医薬品精製用途向けで欧州を中心に輸出が好調に推移したため、売上高が増加しました。

医薬品原薬・中間体は、抗血栓薬中間体、感染症治療薬中間体などが好調に推移しましたが、抗ウイルス薬中間体、抗潰瘍薬中間体などが低調であったため、売上高が減少しました。

売上高

272億7千1百万円
8.6%減少



電極は、家電製品の不振と円高の影響を受けた鉄鋼業界の低迷により、売上高が減少しました。

カラーレジストは、液晶テレビやパソコンなどのディスプレイパネル用途向けの需要低迷により市況が悪化したため、売上高が減少しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は、272億7千1百万円と前期比8.6%の減少となりました。

ダイソーグループのセグメントと主要製品

●セグメント

基礎化学品

機能化学品

住宅設備ほか

●主要製品

かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、ジクロロプロペン、塗料原料、接着剤原料等

アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、液体クロマトグラフィー用シリカゲル、レンズ材料、感光性樹脂、カラーレジスト、電極、医薬品原薬・中間体、光学活性体、資源リサイクル等

ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学製品の輸送・貯蔵、化学プラント、環境保全設備建設等

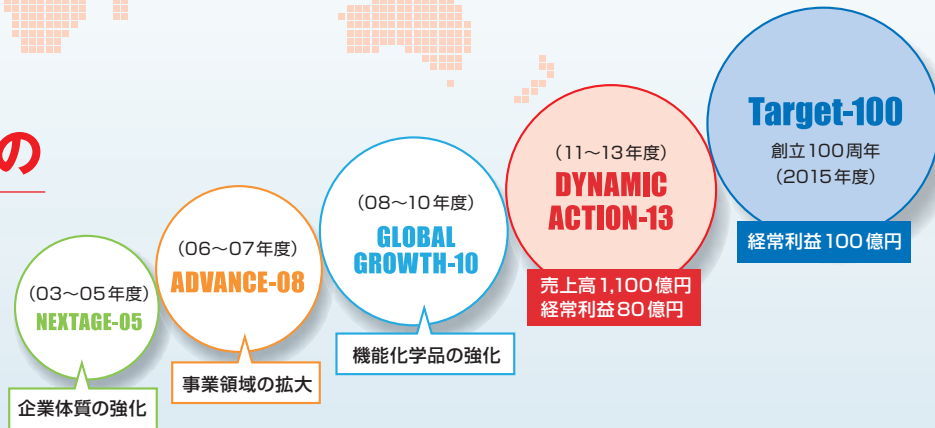
中期経営計画「DYNAMIC ACTION-13」について

DYNAMIC ACTION-13

躍進、革新、挑戦 (2011年度～2013年度)

当社グループは、創立100周年の2015年度に「経常利益100億円」を達成する長期経営目標「Target-100」を掲げております。「Target-100」に向けた基礎固めを担う、重要な3年間の実行計画が、中期経営計画「DYNAMIC ACTION-13」(2011～2013年度)であります。

『Target-100』の 実現を目指して 次のステージへ



連結業績目標

売上高	1,100億円	新製品売上高比率	10%
経常利益	80億円	海外売上高比率	25%
ROA	9%		

基本方針

- 1 コア事業の強化
- 2 次世代事業の育成
- 3 新規事業の創出
- 4 グローバル戦略の推進
- 5 コーポレート戦略の推進

中期経営計画達成への取り組み

■ コア事業の強化:基礎化学品事業

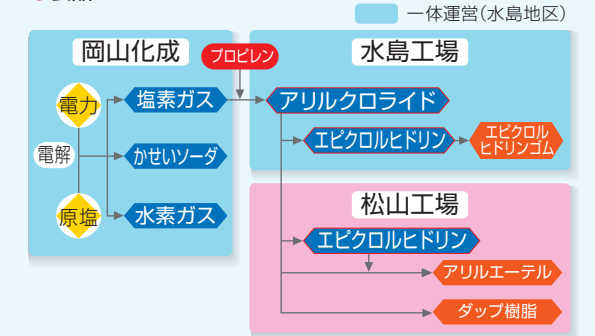
中期経営計画「DYNAMIC ACTION-13」では、アリルクロライド(AC)およびエピクロルヒドリン(EP)とその誘導体であるアリルエーテル、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂などの製品群(AC・EPチェーン)をコア事業と位置付け、その出発原料となる基礎化学品の競争力強化を目指しています。

中計初年度の2012年3月期は、クロール・アルカリのコスト競争力強化に向けた取り組みに着手しました。その一環として2012年4月に岡山化成(株)を完全子会社化し、水島工場との一体運営を開始いたしました。

今後、AC・EP製造能力の増強、水島地区の

インフラの整備などを実施し、「DYNAMIC ACTION-13」の重点施策であるAC・EPチェーンの競争力の強化を推進してまいります。

● 製品フロー：AC・EPチェーン



■ 岡山化成

岡山化成(株)は、当社水島工場に隣接しており、旭化成工業(株)(現 旭化成ケミカルズ(株))の塩化ビニル事業と当社のAC・EPの生産に必要な塩素を確保する目的で、1970年に両社の折半出資により設立されました。

以降、40年以上にわたって、水島コンビナートにおける塩素およびかせいソーダの供給センターとして、当社グループの基礎化学品事業を支えてきました。



岡山化成とダイソー水島工場

■ コア事業の強化:機能化学品事業

当社グループでは、海外市場に軸足を置いて営業力を強化し、アリルエーテル、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂などのニッチで高付加価値の機能製品の事業拡大に取り組んでいます。また、需要の拡大と品質要求の多様化に対応した積極的な設備投資を推進しています。

■ アリルエーテル

主力のアリルグリシジルエーテルはさまざまな素材の結合を補助するエポキシ系シランカップリング剤の原料として使用され、半導体の封止材やプリント基板などの電子材料分野、コーティング材料分野への応用が拡大しています。

また近年は、工業用ボイラーの水垢付着防止剤への展開が進んでいるため、2011年8月に設備能力の増強を完了しました。



モバイル機器



電子材料



松山工場 アリルグリシジルエーテル製造設備

■ エピクロルヒドリンゴム

耐熱性・耐油性などの物性バランスに優れた合成ゴムで、自動車の燃料系、吸・排気用ホースやチューブへの使用が拡大しています。

また、電気特性を生かしたカラー複合機用の帯電ロール向けの需要も伸びています。

今後、新興国市場を中心にさらに需要が拡大することが見込まれるため、2012年3月に設備能力の増強を完了しました。



各種ゴム部品



カラー複合機



水島工場 エピクロルヒドリンゴム製造設備

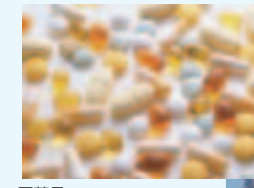
■ 次世代事業の育成

当社グループでは、医薬品原薬・中間体、電極を次世代事業として位置付け、規模の飛躍的な拡大と収益力の強化を図っています。2012年3月期は、医薬品原薬・中間体の原薬製造設備の増強と品質管理体制の強化に取り組みました。

■ 医薬品原薬・中間体

当社独自のバイオ技術と有機合成技術を駆使して新規案件の獲得を目指しています。

2011年12月、サンヨーファイン(株)松山工場に骨粗しょう症治療薬の原薬製造設備が完成しました。併せて、医薬品製造業許可も取得し、原料、中間体から原薬までの一貫生産体制を構築することができました。



医薬品



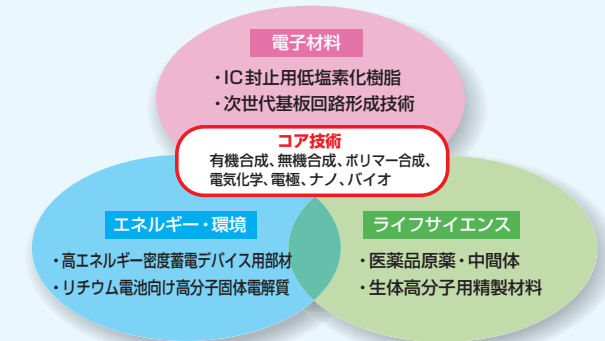
松山工場 医薬品原薬・中間体製造設備

■ 新規事業の創出

当社グループでは、事業化を優先した研究開発を行なうことにより「電子材料」「エネルギー・環境」「ライフサイエンス」の3分野を中心に「Target-100」に向けた新たな成長ドライバーの開発を進めています。

■ 2012年3月期は電子材料分野でタッチパネル用回路形成素材、ライフサイエンス分野でβ-グルカンを応用したナノ粒子分散技術の開発を終了し、早期上市に向けた取り組みを進めています。

● コア技術と研究開発ポートフォリオ



連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期末 (平成23年3月31日現在)	当連結会計期末 (平成24年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	37,613	39,505
固定資産	27,600	28,172
有形固定資産	15,287	16,006
無形固定資産	606	398
投資その他の資産	11,706	11,767
資産合計	65,214	67,677
負債の部		
流動負債	26,371	29,578
固定負債	5,241	3,256
負債合計	31,612	32,834
純資産の部		
株主資本	32,402	33,551
その他の包括利益累計額	1,128	1,224
新株予約権	70	66
純資産合計	33,601	34,843
負債純資産合計	65,214	67,677

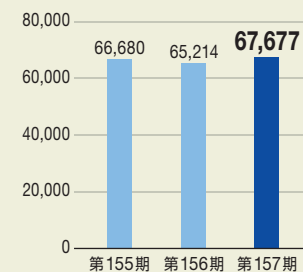
連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	80,757	82,489
売上原価	66,595	68,646
売上総利益	14,162	13,842
販売費及び一般管理費	9,691	9,760
営業利益	4,470	4,082
営業外収益	416	358
営業外費用	267	194
経常利益	4,618	4,246
特別利益	10	4
特別損失	863	726
税金等調整前当期純利益	3,765	3,523
法人税、住民税及び事業税	1,348	1,297
法人税等調整額	△8	285
当期純利益	2,425	1,940

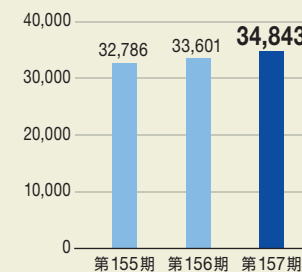
総資産

(単位:百万円)



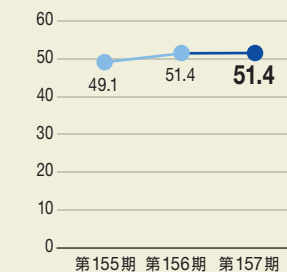
純資産

(単位:百万円)



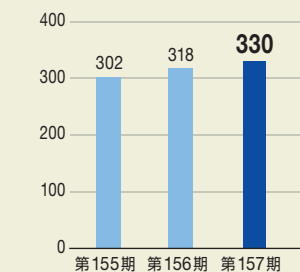
自己資本比率

(単位:%)



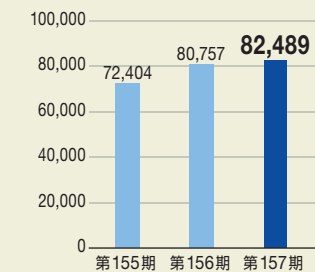
1株当たり純資産

(単位:円)



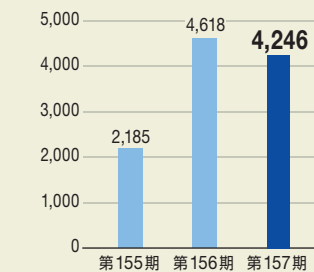
売上高

(単位:百万円)



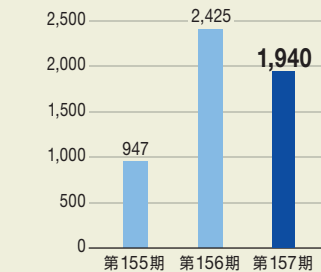
経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,370		3,950
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,312		△2,340
財務活動によるキャッシュ・フロー		△4,726		△1,385
現金及び現金同等物に係る換算差額		△88		△108
現金及び現金同等物の増減額		△757		117
現金及び現金同等物の期首残高		6,522		5,764
現金及び現金同等物の期末残高		5,764		5,881

連結株主資本等変動計算書

当連結会計期間(自平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位:百万円)

項目	株主資本					その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	その他の包括利益 累計額合計		
平成23年4月1日残高	10,882	9,394	13,773	△1,647	32,402	1,131	△2	1,128	70	33,601
連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△790		△790					△790
当期純利益			1,940		1,940					1,940
自己株式の取得				△1	△1					△1
自己株式の処分		0		0	0					0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						93	2	95	△4	91
連結会計期間中の変動額合計	—	0	1,150	△0	1,149	93	2	95	△4	1,241
平成24年3月31日残高	10,882	9,394	14,923	△1,648	33,551	1,224	△0	1,224	66	34,843

(注)連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結株主資本等変動計算書に記載の金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

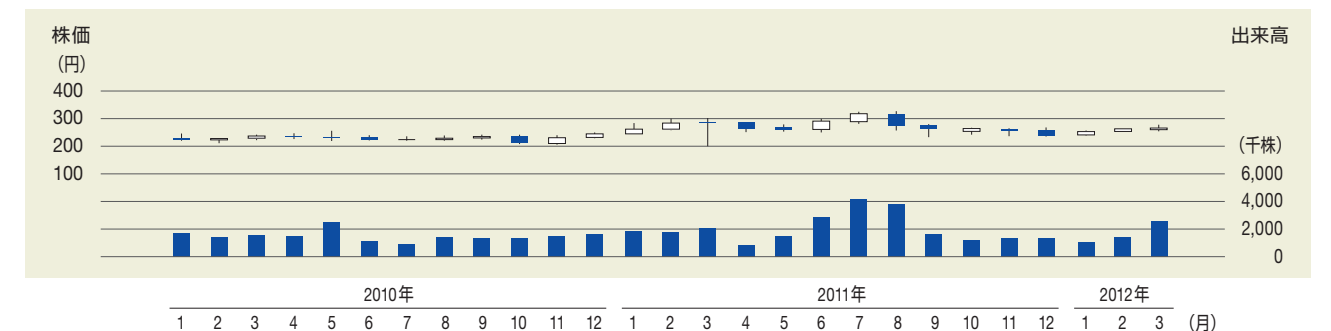
発行可能株式総数 ----- 300,000,000株
 発行済株式の総数 ----- 111,771,671株
 株主数 ----- 8,015名

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本興亜損害保険株式会社	4,692	4.45
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,384	4.16
株式会社池田泉州銀行	4,240	4.02
株式会社福岡銀行	4,113	3.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,898	3.69
株式会社伊予銀行	3,744	3.55
日本生命保険相互会社	3,542	3.36
帝人株式会社	3,393	3.22
株式会社みずほコーポレート銀行	3,348	3.17
旭化成ケミカルズ株式会社	2,933	2.78

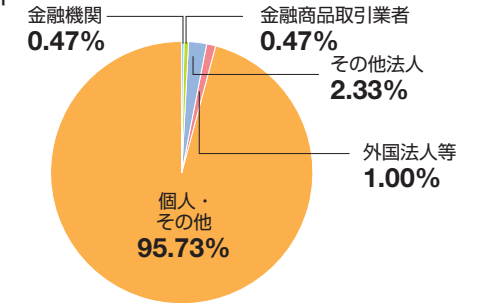
(注)出資比率は、発行済株式の総数から自己株式数(6,369,342株)を控除して計算しております。

株価および出来高の推移

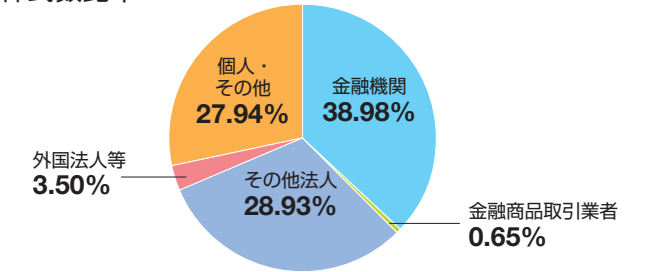


株主分布状況

株主数比率



株式数比率



社 名 ----- ダイソー株式会社
DAISO CO.,LTD.
U R L ----- <http://www.daiso.co.jp/>
創 立 ----- 1915年(大正4年)10月26日
資 本 金 ----- 10,882百万円
連結従業員数 ----- 755名

子会社等の状況(平成24年6月28日)

国内

会 社 名	主要な事業内容
ダイソーケミカル(株)	化学製品の販売
ダイソーエンジニアリング(株)	電極の製造販売、化学設備の設計・施工
サンヨーファイン(株)	医薬品原薬・中間体の製造・販売
(株)ジェイ・エム・アール	資源のリサイクル
DSロジスティクス(株)	化学製品の運送取扱い
DSウェルフーズ(株)	健康食品の製造、加工販売
岡山化成(株)	化学製品の製造

海外

会 社 名	主要な事業内容
大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
台湾大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
DAISO Fine Chem USA, Inc.	シリカゲルの販売、カラムの製造販売
DAISO Fine Chem GmbH	シリカゲル、医薬品原薬・中間体の販売
DAISO CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.	機能化学品・電子材料等の輸出入

役員(平成24年6月28日)

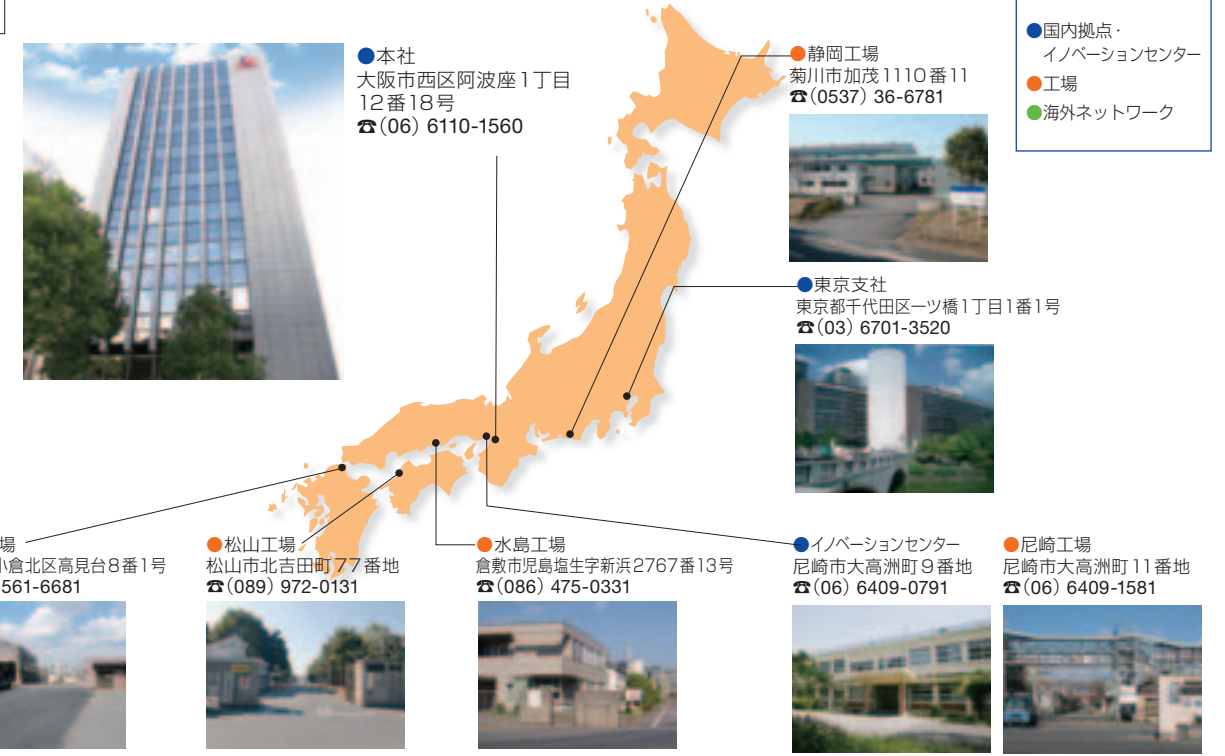
[取締役・監査役]

代表取締役 社長執行役員	佐藤 存
取締役 専務執行役員	山下 光一
取締役 常務執行役員	柴野 美知朗
取締役 上席執行役員	内堀 貴弘
取締役 上席執行役員	遠藤 善一郎
常勤監査役	瀬川 恭史
常勤監査役(社外)	谷口 隆治
監査役(社外)	福島 功
監査役(社外)	森 真二

[執行役員]

執行役員	竹尾 恒行
執行役員	寺田 健志
執行役員	平井 直
執行役員	馬場 一郎
執行役員	雑賀 哲行
執行役員	阿部 哲生
執行役員	松本 龍太郎
執行役員	堀 登
執行役員	加藤 善徳
執行役員	森 裕治郎
執行役員	古川 喜朗
執行役員	西本 光伸

国内



海外

